## 慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	稲田献一著 新しい経済学 : ビジョンと実証
Sub Title	
Author	川島, 康男
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1966
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.59, No.5 (1966. 5) ,p.516(72)-
JaLC DOI	10.14991/001.19660501-0072
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19660501-0072

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

は二階堂副包著『現代経済学の数学的方法』 情知識なしに一応通読することができる。さらにくわしい説明が必要なときでも、たとえば二階堂副包著『現代経済学の数学的方法』(岩波)を参照すれば、ほとんど事足 りる。の存在証明については、この本を参照することは極めて有益である。

その他必要な参考文献は本文中にあげてあるが、しかし論理的な精緻性のみに注意をうばわれることは経済学者としての著者の本意ではなかろう。実際本書のいたるところで露呈されている著者の経済現象ならびに経済理量されている著者の経済現象ならびに経済理量に本書の価値を高めているものなのである。この意味でも、この新著をより多くの人るにおすすめする次第である。

『新 し い 経 済 学稲田献一著

を証明したが、結局は厚生経済学に積極的貢 な四名の女優の名とともに説明される。 いことを示す。第一章は戦後厚生経済学に大べ、それが決して『モデルのオモチャ』でな部分で現代の進んだ経済学の存在 意 義 を 述 きなショックを与えた、 橋渡しを行っている。内容は、経済基礎論の 約を述べ、氏の言葉を借りれば『常識に毛の 生えた程度。 書はそれらを大変くずして、 問が高度に抽象的論理的になって来たが、 としている。 日本の学者がどんな貢献をしたか を 示 さ ん の学者の関心がどう変ったか、それに対して 積極的 貢献を 行っている。 本書は 戦後世界 はすでに『ピースなみに世界的水準』に達し、 倣であった。しかし戦後約二十年間に状況が 学は戦前までもっぱら欧米の経済学の輸入模 は民主社会に於て社会的厚生函数の非存在 福沢諭吉のウェー 本書の著者の稲田氏を始め少壮の学者 の知識と現代の進んだ経済学の 戦後経済学も非常に進歩し、 ランド以来、 アロー わかりやすく要 の貢献が有名 日本の経済 本 学

頁・四〇〇円) 一川島 康念のために。(日本経済新聞社·B6・ 田氏は日本が世界に誇る有数の学者である。 済理論を知ろうとする人には良い手引きと 献があるのでそれを参照されたい。最新の らに興味を持たれた方は各章の終りに参考文 幾つかあり、 成長論等の初等的解説である。最新の話題も ターンパイク定理、最適成長論である。 モデル、資本財、消費財に分けた二部門モデ の数に関するコアーの理論、伝統的仮定の下 ノイマン・モデル、ターンパイク定理、 ル (日本の学者の 貢献が大きい)、 での消費者行動とちがうグリード・ 別曲線が後者から引出されること、第三章は 於ける均衡価格の存在、 び後者の限界生産力の説明、 れらの相互関係、特にある条件の下では無差 企業の理論で伝統的アプロ る部分で、 明され、第二章はミクロ経済学の基礎とされ 献をなしたことなどが著者の貢献とともに説 第五章は経済成長論で、 本書中所々に厳しい批判があるが、 ・プレファランスのアプローチ、 無差別曲線のアプロー コアーの理論、二部門モデル、 その安定性、 ーチと線型計画及 ソロー 第四章は市場に 多部門 の一部門 ブ 競争者 及び こ れ 最適 Þ 稲 経 セ

## 安川正彬君学位授与報告

学位論文題名 「人口の経済学」学位の種類 経済学博士学位の種類 経済学博士

内容の要旨

「人口の経済学」論文要旨

安川正彬

済学の映像の外に追いやられたのである。 集合概念としてとらえられる人口は経済・社会と自然をとりつなが異った。また、社会が発展し、経済が繁栄をつづけた十九世紀後半のの系譜のなかにも、古典学派の昔から過去に例外をみることはなかの系譜のなかにも、古典学派の昔から過去に例外をみることは経済学いのでも社会に不幸が感じられる人口は経済・社会と自然をとりつな集合概念としてとらえられる人口は経済・社会と自然をとりつな

も、ともに新陳代謝するから、人口は経済・社会と相互依存の関係ちの努力によって築きあげられるものであるが、人口も経済・社会経済・社会とは人口が『自然』に働きかけて、そこに住む住民た

で結ばれることになるが、ここで、本論文の基本は、経済とは社会のたんなる一部ではなく、経済は社会を構成する基盤をなすというが、社会の不幸が深刻に感じられるとき、人口はいつでも経済学者の手もとにあるが、社会不安が薄くなると、人口はいつでも経済学者の手もとにあるが、社会不安が薄くなると、人口はいつでも経済学者の手もとにあるが、社会不安が薄くなると、人口はいつでも経済学者の手のがの基本である。ここに「人口の経済学」を体系化する基盤があたえられるのである。

を見いだしたことである。 とのような体系化を形成するために、人びとが人口を意識し、人口研究を進めてきた系譜と、古典学派以来の経済学の系 譜 の な かに、これらが相互にどのように経済学者はこれにどのような分析手段なかにどのように受けいれ、人口学者はこれにどのような分析手段を講じてきたか、そのような経済学者と人口学者の意識の相違が学を講じてきたか、そのような経済学者と人口学者の意識の相違が学を講じてきたか、ここにまとめられた「人口の経済学」である。そしるか結果なのか』という設問に解答をあたえたことであり、さらにそこから、経済社会が今後に発展をつづけるとき、人口の実践的意義という、経済社会が今後に発展をつづけるとき、人口の実践的意義というな体系化を形成するために、人びとが人口を意識し、人口研究を進めてきたか。このは済学の系 譜 の な かにしたのか。という設問に解答をあたえたことであり、さらにそなかにとのような体系化を形成するために、人びとが人口を意識し、人口研究を進めてきたが、この経済学の系 譜 の な かに、人びとが人口を意識し、人口研究を進めてきたから、というなどが、というなどが、というなどが、というなどのようなが、というなどが、というなどのようなが、というなどが、というなどが、というなどのようなが、というなどのようなが、というなどが、というなどのような体系によっている。

学位授与報告